

項目	観点	教科書名			
		新しい国語(2・東書)	みんなと学ぶ小学校国語(11・学図)	ひろがる言葉小学国語[17・教出]	国語(38・光村)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために 取り扱う内容の選択について	(1) 日常生活に必要な国語についての特質を理解し、適切に使うことができるようにするために、どのように配慮がされているか。【知識及び技能】	○年度当初に書くこと「情報の扱い方」系統の小単元を位置づけ、情報の扱い方における知識および技能の基礎を身につけ、以後の学習に役立てられるように配慮されている。 ○単元ごとに学習を通じて育成する資質・能力を「言葉の力」として表記し、重点的な学習により確実に定着するようにしている。 ○「〇年で習った漢字」を数回に分けて配置することで、年間を通じて前学年で学習した漢字について習得できるようにしている。 ○学習の基盤として習得すべき知識や技能について、「おさえる」としてまとめられている。	○読解教材の後に「学習のてびき」として、学習の流れを手順と共に明記し、見通しをもった学習展開の補助となっている。 ○前学年で学習した漢字を「言葉をつないで文を作ろう」の小単元の中で「〇年で習った漢字」として年間を通して取り上げ、漢字力の定着を図っている。 ○「国語のかぎ」で単元のポイントを分かるように整理し、学習の基盤となる知識や技能を明示している。	○「ここが大事」で大切なことを押さえてある。単元末に言葉について学習したり、言葉に関する小単元を多く取り入れたりしている。 ○巻末に言葉のまとめや本の紹介が載っている。	○他教科や日常生活の場面で、国語科の学習の「何が」「どのように」いきるのか、ヒントを示している点に特色が見られる。 ○「情報」教材を系統化し、情報活用の仕方だけではなく、文章理解や自分の考えの表現をともなった場面で、習得・活用できるよう配慮している。 ○単元の最後に「たいせつ」なことを示している学習ポイントがある点に配慮が見られる。 ○巻末に「たいせつ」のまとめや「ことばのたからばこ」があり、学習したことを確かめたり生かしたりすることに使える。
	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことができるように配慮されているか。【思考力・判断力・表現力等】	○「書くこと」では、見通しは教材文の中に示されており、例文の中から必要な情報を読み取り、学習を進めることができるよう配慮されている。 ○「読む」教材の中にも、伝え合う活動を取り入れた内容となっている。 ○見通しをもって学習ができるように学習の流れを明確に示している。単元ごとに目標に応じた振り返りができるようになっている。 ○2年生から2つの文章の違いを比べて考える教材がある。	○「書くこと」では、「あつめよう」・「かこう」・「みなおそう」・「つたえあおう」という項目に分けて下部に示し、見通しを持って学習を進めることができるよう配慮されている。 ○単元の最初にめあてが示されている。学習のてびきがあり、学習の流れが示されている。 ○カレンダー、図鑑、図表などさまざまな表現方法でまとめる工夫がされている。 ○「学習のてびき」に示されためあてを達成するための言語活動を各単元で設定し、考えを形成する手立てとして「国語のカギ」を示す等配慮されている。	○「書くこと」では、「きめよう」・「あつめよう」・「くみ立てよう」・「かこう」・「よみかえそう」・「つたえあおう」という学習の進め方を下部に示し、見通しをもって学習を進めることができるよう配慮されている。 ○「読むこと」では、単元の最後に「たしかめよう」・「かんがえよう」・「ふかめよう」・「ひろげよう」といった学習の進め方が見開き1ページで紹介されており、見通しをもって学習を進めることができるように配慮されている。 ○考え方の例を入れた学習の進め方やふりかえりを示し見通しをもって学習ができるよう配慮されている。	○「書くこと」では、見通しが教材文の中に示されており、例文や人物の吹き出しの中から必要な情報を読み取り、学習を進めることができるよう配慮されている。 ○人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高めるために、「対話の練習」を示し、学校生活に役立つ対話スキルを学ぶことができるよう考慮している。 ○「見通しをもとう」により、同じパターンで学習することができるようになっている。ノート例や考え方の例を吹き出しで示している。単元ごとに細かい観点で振り返りができるよう配慮されている。
	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うことができるようにするために、どのように配慮がされているか。【学びに向かう力・人間性等】	○生活場面の対話例や敬語の用い方、言語に関する教材が配されており、「ことばあつめ」「言葉の広場」が設けられ、言語感覚が養われるよう配慮されている。 ○各単元の最初に身につけたい「ことばの力」を明示することで、既習事項や日常の言語生活とつなげられるように配慮されている。 ○各学年の段階に合わせて、実際に図書館を利用する経験を通じて、目的に応じた図書館の利用の基礎を学ぶことができるよう配慮されている。 ○「読むこと」の最後に、本の写真を掲載したり、作者へのインタビューや絵本の紹介をしたりしている。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元には、「学習の見通し」を設けている。 ○「ことば集め」をしながら語彙力を高めることができるよう配慮されている。	○入門期から「おはなしききたいな」という単元で、読み聞かせをし、絵本を写真入りで掲載している。 ○年度初めに、1年間通して「ことばあつめ」や「たねあつめ」ができるような取り扱いになっている。 ○小単元の「きせつのはより」や「ことばのいずみ」で語彙力を高めることができるようになっている。 ○「季節のはより」や物語や詩、短歌などで直感やイメージ等の感性で言葉を捉える教材や、「読書の部屋」では読書を通して交流する教材を設定することで言語感覚を養うよう配慮されている。 ●1年生上の巻末資料編に「ことばをみつけよう」が見開きで掲載されているが、イラストのみで言葉の確認が難しい。また、1年下では「じゅぎょうでつかうことば」が掲載されているが、イラストがなく低学年ではわかりにくい。	○単元のまとめに、「ことばをまなぼう」・「ことばをふやそう」というページがあり語彙を増やす配慮がされている。 ○巻末に見開きで、「ことばの木」・「ことばのまとめ」が掲載されている。 ○漫画を説明文の教材として扱い、イラストも多く取り入れ、視覚的に児童に興味関心をもたせられるよう配慮している。 ○さまざまな形式の「漢字のひろば」を数多く取り入れている。	○友達と協力してお話を続ける対話練習や、言葉についての教材、季節の言葉などで言語感覚を養う配慮がなされている。 ○「ことばあつめ」や「ことばあそび」のページが多く、楽しみながら語彙を増やす配慮がされている。 ○図書館の使い方を学ぶ単元を二つ新設し、下巻付録に読書案内を設けているところに特色が見られる。 ○年度初めに、日記など年間を通して取り組めるものを取り扱っている。 ○関連図書の紹介をしている。 ○言葉に関する小単元で季節の言葉や漢字の広場があり、言葉の学習ができるようになっている
2 内容の程度及び取り扱いについて	(1) 言葉による見方・考え方を働かせ、国語科で目指す資質・能力を育成するために、どのような工夫が見られるか。	○写真やグラフ、表など多彩な資料を活用している。 ○各単元は、「つかむ」「取り組む」「ふり返る」のステップに沿い、育成すべき「言葉の力」を明確にした分かりやすい構成となっている。	○読みを深めるための視点を「学習のてびき」において順を追って示すことを通して、資質・能力を育成するための工夫が見られる。 ○登場人物の心情の変化や、人物同士の関係を読み取るために、物語の構造に注目して読み進めるための手がかりが分かるような手引きを示している。	○どの領域においても、学習の流れが番号順に提示されており、学習の見通しがもちやすい。 ○児童の発表例や作品例が提示されているので、学習の進め方が分かりやすい。 ○読みを深めるための視点を「4つのステップ」で示し、下段に学習する際の手立てを示すことを通して、資質・能力を育成するための工夫が見られる。	○読みを深めるための視点を「学習ページ」で示し、下段に学習活動を例示して、資質・能力を育成するための工夫が見られる。 ○物語の登場人物像をとらえたり、作者の視点に注目して読んだりするための手がかりとなる解説のページを設けている。

項目	観点	教科書名			
		新しい国語(2・東書)	みんなと学ぶ小学校国語(11・学図)	ひろがる言葉小学国語[17・教出]	国語(38・光村)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現のためにどのような工夫が見られるか。	○巻頭に「国語の学習の進め方」として、「つかむ」「ふり返る」という基本的な進め方が示されている。 第2～6学年では、各学年の最初に、友達との対話を通じて互いの考えを広げたり深めたりする学習が位置付けられている。 ○単元ごとに課題と学び方がよく分かるように示されている。課題にそった振り返りとポイントを押さえた「言葉の力」、学んだことを生かしていけるようなヒントが載っている。 ○育成すべき資質・能力を具体化した「言葉の力」を学習の中核とし、主体的・対話的で深い学びが実現されるような工夫が見られる。 ○各学年の最初に、「話すこと・聞くこと」の「対話」の小単元を設け、対話的な学びの基礎基本となる力を身につけ、学年を通して活用できるようにしている。	○巻頭に「国語の学習の進め方を確かめよう」として、「つかむ」「見方や考え方を学ぶ」「まとめる・ふりかえる」「広げる」の学習過程が例示されている。 ○学習の手引きで単元ごとに課題が示されている。「学習のカギ」で学習方法やポイントをおさえ、最後に振り返りができるような流れになっている。 ○身に付けた力を深い学びにつなげるために、学習の方法やポイントを確認できる「国語のカギ」を設定する工夫が見られる。	○単元末にその教材を利用して学習していく場合の過程を「確かめよう」「考えよう」「深めよう」「広げよう」として示し、対話的に学習から深い学びへと進める例がイメージされている。 ○身に付けた力を深い学びに近づけるために、他の教材でも活用できる学習のポイントと「ここが大事」を設定する工夫が見られる。 ○「ひろげよう」「深めよう」などの学習過程(学習の流れ)が示されている。年間を通して同じ流れができており、学習の仕方が学べるようになっている。	○巻頭に「国語の学びをみわたそう」として「初めに」「読む・書く・話す聞く」「ふりかえる」「学習や生活に生かす」の過程が、単元末には、「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」の学習過程が示されている。 ○巻頭には対話的な学びを想起させる挿絵がある。 ○ノート例やまとめ方の例が随所に提示されているので、書く作業の見本として視覚的に分かりやすく参考になり、主体的な活動につながる。 ○一番最初に国語の学び方を示している。課題と学習過程がはっきりと示されている。 ○児童のイラストで例が示されているので考え方の手立てにすることができる。
	(3) 伝え合う力を高めるために、どのような工夫が見られるか。	○各巻の巻頭に当該学年の「言葉の力」を見通す「○学年で学習する言葉の力」や、1～4年の下巻の巻末付録には上巻で学習した「言葉の力」を振り返る「○上で学習した言葉の力」を設け、「言葉の力」の系統やつながり、伝え合うためのいろいろな方法などを提示している。	○「国語のカギ」として話すときや聞くときのポイント、パネルディスカッションの進め方、書くときのポイントが示されている。 ○当該学年に合った「話すこと・聞くこと」の単元を設定し、「共感する力」を育む小教材を設置するなどして、伝え合う力を高める工夫が見られる。	○部屋の入り方や、はじめのあいさつの仕方など、日常生活や学校生活に関連した場を設定し、児童の実生活に結びついた活動となるよう工夫することで、目的意識や必然性・必要感と児童の意欲を喚起する工夫がされている。 ○読む教材でも単元を通してすべての学習過程の中に話し合う活動が設定されている。 ○「大事な言い方」として具体例を示すと共に巻末付録「言葉のまとめ」として言葉の使い方を例を示しながら表記している。	○1学期には傾聴する姿勢づくり、2学期には話合い、3学期にはスピーチを位置づけ、学年の発達段階に合わせながら、伝え合う力を高める工夫がされている。 ○目標をはっきりさせて系統立てて伝え合う手立てを高めるための工夫がされている。 ○伝え合うときの話し方、話し言葉の具体例を示している。
3 構成・配列・分量	(1) 単元の構成や教材の配列には、どのような特色があるか。	○発達段階に配慮して、音声言語から文字言語へ、「読む」から「書く」へ、無理なく学びやすい配列をしているところに工夫が見られる。 ○生活科や図画工作科などと関連させやすい題材や活動などを積極的に取り上げることで、スタートカリキュラムにも対応させることを考慮している。 ○2年生以上の各巻の巻頭に、「国語の学習の進め方」を設ける等、1年間で身につけたい力を見通すための単元を配列し、年間を通じて「何を、どのように学ぶか」が見通せるような単元の配列が見られる。学習の基盤となる知識や技能を、「おさえる」として明示している。 ○仮名や漢字の読み書き、児童がつまづきやすく習得に課題がある事項について、習得のための練習教材を設けている。 ○課題解決的に学習を展開できるよう、単元が「つかむ」「取り組む」「ふり返る」で構成されている。 ○各学年の言語教材の一つを、その学年の言葉の学びを振り返り深める単元として設定し、さまざまな言葉の特徴や使い方に改めて目を向けられるようにするという特色が見られる。 ○メモの取り方(話す・聞く)の後にレポート作成の単元があり、関連が見られる。	○「読むこと」の単元の前に、「読むレッスン」が設定されており、次の学習に生かせるよう工夫されている点に特色が見られる。 ○巻末に、一年間の学習に関連する大切な言葉や授業で使う言葉等が掲載されており、1年間の国語学習の振り返りができるようになっている。 ○説明的文章の後に「書くこと」の教材を配列することで、説明的文章で学習したことが生きる特色が見られる。 ○「季節のたより」を通して、年間を通して季節の言葉や季節に合った俳句などが学べる工夫が見られる。 ○漢字の書き順が巻末にまとめて記載されている。	○児童が言葉に興味を抱きやすい教材を最初に配列している。 ○言語活動を意図的に配列し、復習や応用が図れるようになっている。 ○漢字の書き順が巻末と単元の場所と二カ所に記載されている。	○短い「練習」教材で身につけた力を生かして、長い説明文に取り組むなど、つながりを意識した配列を工夫している点に特色が見られる。 ○巻末に付録「学習を広げよう」があり、国語科における資質・能力を育成するための学習過程や内容について、多様な例示をもとに、ポイントをまとめてある。 ○巻末付録の中に、実際の点字一覧が付いており、児童の興味・関心を高めるものとなっている。 ○漢字の書き順が単元ごとに記載されている。 ○「読むこと」と「書くこと」や「ことば」と「書くこと」が関連づけて配列されるなどの工夫がされている。
	(2) 単元や教材の分量には、どのような特色があるか。	○各領域の指導事項をもれなく、バランスよく育成できるよう、領域ごとに適切な系統を設け、全学年を通じ系統的に取り扱っている。 ○一単元一領域を原則として指導事項を重点化するとともに、重点指導事項に即した具体的な言語活動を設定し、活動の意図や条件に沿った課題解決的な学習を通じて、必要な思考力、判断力、表現力が身につくように配慮されている。 ○児童の関心や発達段階に合わせた教材・題材になっている。	○説明的な文章や文学的な文章、話すこと・聞くことの関連指導を考慮している。 ○2領域3教材において、環境教育に関わる教材を多く取り上げ、今日的課題を提示している点に特色が見られる。	○3領域にわたって、環境、生き方、伝統文化、言葉など、児童に考えさせたいテーマを偏りなく取り上げている点に特色が見られる。 ○言語活動を意図的に配列し、復習や応用が図れるようになっている。 ○単元や教材で扱う教材や文章の種類が多い。	○漢字の書き順が単元ごとに記載されている。 ○「読むこと」と「書くこと」や「ことば」と「書くこと」が関連づけて配列されるなどの工夫がされている。 ○次の単元や学年につながる情報や言葉が多く示される工夫が見られる。

項目	観点	教科書名			
		新しい国語(2・東書)	みんなと学ぶ小学校国語(11・学図)	ひろがる言葉小学国語[17・教出]	国語(38・光村)
4 表記・表現	(1) 用語や記号、レイアウト等について、どのような工夫が見られるか。	○新出漢字や読み替えの漢字のほか、使えるようにしたい言葉に記号が付けられている。また既習の漢字を確認する頁では、既習漢字を用いた短文を示して書かせる工夫が見られる。 ○単元の目標、学習の観点、リード文を示した扉があり、課題意識を持たせる工夫がある。 ○全ての物語・説明文教材の脚注罫線には、五行ごとの行数字だけでなく、1行ごとに点(。)を示している。 ○目次の単元名の上に、「読む」「書く」「話す・聞く」の表記があり、領域が一目で分かりやすい。 ○下部脚注に、新出漢字が青枠で囲まれて分かりやすく表記されている。また、誤訳や辞書で調べさせたい語句等が表記されており、語彙を増やすための工夫がされている。 ○脚注に、難解語句についての説明がある。巻末に新出漢字の読み方や筆順がまとめてあり、例語や使い方が複数示されている。 ○ローマ字表の他、のばす音・つまり音・大文字・小文字について示されている。また、ローマ字やアルファベットには、特別支援教育の専門家の助言のもと、英語教科書用に新たに開発したユニバーサルデザイン書体を用いている。	○新出漢字や読み替えの漢字のほか、「辞書を引きいて調べる言葉」に記号が付けられている。 ○既習の漢字を確認する頁では、既習漢字を用いた短文を考えて書かせる工夫が見られる。 ○最初に単元の目標・学習の観点を示し、本文では語句に番号を付けたり、漢字の読み方や筆順が下部脚注に示されたりしている点に工夫が見られる。 ●目次は付いているが、領域の表記がないため、どの領域の教材かが分かりにくい。	○既習の漢字を確認する頁では、既習漢字を用いた短文を考えて書かせる工夫が見られる。 ○単元の目標、本文の一行、学習の観点などを示した扉があり、課題意識を持たせる工夫がある。 ○本文中の固有名詞に傍点をつける。脚注では新出漢字の送り仮名を明確に示す等の工夫が見られる。 ○目次の単元名に「読む」「書く」「話す・聞く」の表記があり、領域が分かりやすい。 ○巻末に教科書で学習してきたことをまとめることで、今までの学習について振り返りやすい工夫が見られる。	○新出漢字や読み替えの漢字のほか、学習を進めるときに気をつけることや国語の学習を進めるときに用いる言葉など多種の記号が使われている。 ○既習の漢字を確認する頁では、既習漢字を用いた短文を考えて書かせる工夫が見られる。 ○写真が多く、美しい。イラストも多く、イメージをつかみやすい。 ○目次には、領域の表記が文字とイラスト記号で表されていて分かりやすい。 ○ローマ字では英語と密接に関連するローマ字表記を掲載している。
	(2) 写真や挿絵、図表等について、どのような工夫が見られるか。	○色覚の多様性に配慮され、色だけで区別・判別する表現を避け、必要に応じて色以外の情報を加え、全ての児童が見やすい紙面となるよう工夫されている。 ○文章をもとに想像を膨らませるような挿絵となっている。登場人物の顔の表情を描かないことで、文章表現をもとにした読みができるような配慮が感じられる。風景画は、文章表現の読み取りを補助する効果的なものとなっている。また、一つ一つの挿絵は適度な大きさとなっている。 ○説明文においては、多くの写真を掲げ、文章の内容を理解しやすいように配慮されている。写真で表現しにくいところは、挿絵が使われている。学習の際の参考資料として活用できるよう図や表が多く示されている。また、比較しやすいように対照を並べて提示する工夫が見られる。 ○デザイン、色使いが大切な内容がすぐに目につくよう工夫されている。 ○QRコードを用いて学習に関連のあるウェブページが参照できるような工夫がある。	○QRコードで、学習の助けとなる動画やワークシートを示している。 ○色を多用せず、最小限に抑えている。 ○文章を捉えやすいように、説明文には写真、物語文には挿絵を使用している。 ○説明文においては、多くの写真を提示し、文章の内容を理解しやすいように配慮されている。また、写真の説明を入れてあるので、何のための写真なのかの分かりやすさく示されている。 ○挿絵の数が多く、場面を想像しやすい。はっきりした色彩の挿絵である。 ●めあてや学習の手引きの字がやや小さく読みにくい。	○「まなびリンク」としてQRコードを用いて学習に関連のある写真、ワークシート、ウェブページが参照できるような工夫がある。 ○全体的に淡い色調で、写真や挿絵で文章の内容を理解しやすいように配慮されている。 ○優しい感じの美しいイラストで、文章表現内容をイメージしやすくなっている。 ○説明文においては、多くの写真を提示し、文章の内容を理解しやすいように配慮されている。 ○物語文においては、教材に合わせたタッチの挿絵が用いられている。	○QRコードを用いて学習に関連のある写真や動画、ウェブページが参照できるような工夫がある。 ○挿絵が、現代風で親しみやすい。 ○学習のどの場面で、どんな対話を取り入れるとよいかを、イラストと話例で示し、対話的な学びのヒントとなるような工夫がされている。 ○グラフ等の資料では、色だけではなく、形でも区別ができるように配慮されている。 ○写真が多く、美しい。イラストも多く、イメージをつかみやすい。
5 体裁、使用上の便宜	装丁や使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。	○新出の音読みにはカタカナでふりがながふられている。 ○目次は、学習項目がよく分かりまた巻末には資料がある。 ○1～4年生は上下巻二分冊、5～6年生は学年一冊の合本である。合本は重いが1年間の学習をとらえやすい。 ○本文は見やすく、文字の指導に適した教科書体を独自に開発し使用している。 ○読み書きにつまずきを抱えやすい児童を支援する指導モデル(MIM)を生かした特殊音節の指導が取り入れられている。	○全学年上巻と下巻に分かれており、「重いランドセル」の解消に役立つ。 ○新出の音読みと訓読みはどちらも平仮名でふりがなが付けられている。 ○目次は、学習項目のほかに各単元の内容を想起しやすいイラストマークが掲載されている。学習項目がわかりやすく内容が探しやすいように配慮されている。また巻末に資料編がある。 ○1年上のインデックス形式や、小単位ごとに色分けされた小口に工夫が見られる。 ○色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮されている。 ○本文は教科書体活字である。注記にはイラストマークが活用されており、自主的な活動がしやすく配慮されている。	○上巻と下巻に分かれており、「重いランドセル」の解消に役立つ。上巻下巻それぞれに、一年間の学習が俯瞰できるような配慮がなされ、学習者にとってはイメージしやすい。 ○新出の音読みにはカタカナでふりがながふられている。 ○目次は、学習項目が明記されており、付録として「この本で学ぶこと」がイラストで分かりやすく示されている。 ○巻末の付録が充実している。	○1～4年生は上下巻二分冊、5～6年生は1冊の教科書を年間を通じて使用する。5～6年生は1年間の学習の見通しが持てるように配慮されている ○新出の音読みにはカタカナでふりがながふられている。 ○目次は、学習項目のほかに各単元の内容を想起しやすいイラストマークが掲載されている。 ○巻末に「学習を広げよう」のページが設けられ、既習事項をふくめた学習の確認ができるような工夫が見られる。 ○フォントの用い方に発達段階を考慮した工夫が見られる。